

平成28年度第3回留萌市総合教育会議 議事録

- 1 と き 平成28年12月22日(木)
- 2 と こ ろ 留萌市役所3階 3・4号会議室
- 3 出 席 者 市 長 高 橋 定 敏  
 教育委員会教育長 早 川 隆  
 教育委員会委員 高 田 潔  
 教育委員会委員 西 川 知 恵  
 教育委員会委員 野 島 操
- 4 欠 席 者 教育委員会委員 松 村 香 里
- 5 関 係 職 員 生涯学習課長 長 野 稔  
 子育て支援課長 石 塚 隆  
 学校給食センター長 本 間 泰 彦  
 幼児療育通園センター長 佐 藤 薫  
 政策調整課長 高 橋 一 浩  
 政策調整係長 佐 伯 忠 昭
- 6 事務局職員 教育部長 斉 藤 一 司  
 学校教育課長 柏 原 俊 博  
 学校教育専門指導員 山 本 浩  
 学校教育課庶務係長 真 鍋 磨  
 総務課長 遠 藤 秀 信
- 7 傍 聴 人 なし
- 8 開 会 宣 言 午後2時30分
- 9 議 事 録

発言者	内容
斉藤教育部長	<p>ただ今から、平成28年度第3回留萌市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>なお、本日、松村委員が仕事の関係で欠席の申し出がありましたので、報告します。</p> <p>本日の会議では「協議・調整案件」といたしまして、「留萌市教育ビジョンについて」を議題としております。</p> <p>開催にあたりまして、高橋市長からごあいさつをいただきたいと思います。</p>

	<p>よろしくお願いいたします。</p>
高橋市長	<p>皆さんこんにちは。</p> <p>雪も積もったり、溶けたりを繰り返している状況ですが、子どもたちが通学等について、しっかり冬期間は特に事故のないようにしたいと考えております。</p> <p>今日は、留萌市の教育ビジョンということで、みなさんとの会議を開いていきます。来年度からの10年間、子どもたちにとってもやはり大いに私たちの夢を語りながら、そして夢を実現する。子どもたちには夢が広がる、夢、希望というのは、生きる力に間違いなくなる。子どもたちが自分の将来に夢をしっかりと持つ。今回は子どもたちが留萌振興局でいろんな職業体験をするということで、チャレンジしておりました。実際にああいう空間で、子どもたちは将来、自分もどういふ道を歩んでいくのか、やはり大きな夢を子どもたちに抱いていただきたいと思ひますし、子どもたちの夢実現のために教育環境、私たちは責任を持って安心安全の中で子どもたちが健やかに育っていけるような環境づくりというのを注視していかなければならないと思ひております。</p> <p>今日、この会議の中で、またみなさんにご意見いただきながら進めてまいりたいと思ひますので、よろしくお願いいたしますと思ひます。</p>
斉藤教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速、議題に入らせていただきたいと思ひます。</p> <p>議事の進行につきましては、留萌市総合教育会議設置要綱第4条の規定によりまして、市長に議事の進行をお願いいたします。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
高橋市長	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>協議・調整事項の「留萌市教育ビジョンについて」を議題といたします。</p> <p>計画案につきまして、教育委員会事務局より説明をお願いします。</p>
柏原学校教育課長	<p>留萌市教育ビジョン案につきましてご説明をいたします。</p> <p>はじめに策定経過につきまして、ビジョンの20ページをご覧くださいと思ひます。</p> <p>留萌市教育ビジョンの策定にあたりましては、学校教育関係者及び社会教育関係者の8名の委員で構成いたします留萌市教育ビジョン策定会議におきまして議論を重ねていただき、策定を進めてきたところであります。</p> <p>1ページにお戻りください。教育を取り巻く環境、背景や理念などを「はじめに」と題して記載しております。</p> <p>2ページでは、教育ビジョンと第6次留萌市総合計画などとの相関図を示しております。</p> <p>教育ビジョンは、平成29年度から38年度までの10カ年を</p>

計画期間とし、第6次総合計画の都市像の実現に向けて教育が果たす役割に加え、留萌市の子どもたちを育むうえで大切にすべき基本目標や取組方針をまとめたものであります。

そのビジョンに基づきまして、第6次総合計画の前期基本計画や中期財政計画と連動した形で、5カ年を計画期間とした、より具体的な教育施策や取組みをまとめた計画として「学校教育部門」と「社会教育部門」の二つの振興計画も新たに策定いたします。

二つの振興計画では、教育ビジョンの実現と合わせて、社会状況の変化や留萌市の目指す方向性に対応した、今の時代に特に求められる視点を取り入れ、「学校教育振興計画」では、学校と教育委員会事務局の具体的な取組みを、「社会教育振興計画」では、社会教育関係団体と教育委員会事務局の具体的な取組みを明確にし、それぞれが連携をしながら各施策を着実に推進することを目的とする計画として、現在策定作業を進めております。

3ページをご覧ください。教育ビジョンの体系図として、10年先を見据える中で教育の基本的な考えに立ち、基本部門を「学校教育」「社会教育」「教育環境」の3部門とし、学校教育部門では「確かな学力を身に付けるための教育の充実」「豊かな心の育成」など5つの戦略プログラム、社会教育部門では「生涯教育の充実」など3つの戦略プログラム、教育環境部門では「安全・安心な教育環境の確保」など3つの戦略プログラムで構成しております。

4ページでは、学校教育部門の基本となる考え方、目標を示しており、「自立と共生の力を兼ね備えた、未来の留萌を担う人材の育成」を目指してまいります。

5ページをご覧ください。1つ目の戦略プログラム「確かな学力を身に付けるための教育の充実」として、「幼保小連携の充実」と「小・中学校教育の充実」を掲げ、それぞれが目指す目標と基本となる取組を記載しております。

次期学習指導要領を見据える中で、小学校での英語の教科化の考えを5ページの(3)に、主体的・対話的で深い学びの考えを6ページの(5)に取り込んでおります。

7ページからは、2つ目の戦略プログラム「豊かな心の育成」として、「郷土に誇りを持った教育の推進」など6項目を掲げ、道徳の教科化の考えを7ページの2番に取り込み、また、児童生徒が持つ悩みや不安を乗り越えて自立していけるような生徒指導の考えを8ページの4番に記載しております。

9ページでは、3つ目の戦略プログラムとして「健やかな体の育成」、10ページでは4つ目の戦略プログラム「教員の資質・能力の総合的な向上」、5つ目の戦略プログラム「信頼される学校づくりの推進」を掲げ、それぞれが目指す目標と基本となる取組を記載しております。

信頼される学校づくりの推進では、これまでの「地域に開かれ

	<p>た学校」から「地域の中の学校、地域とともにある学校」の仕組みづくりとして、コミュニティスクールやチーム学校、カリキュラムマネジメントの考えを取り込んでおります。</p> <p>12ページから16ページにつきましては、後ほど、生涯学習課長からご説明いたします。</p> <p>17ページでは、教育環境部門の基本となる考え方、目標を示しており、「老朽化対策など施設の適切な維持管理や安全・安心で質の高い教育環境」を目指してまいります。</p> <p>18ページでは、1つ目の戦略プログラム「安全安心な教育環境の確保」として、「学校施設等の環境整備」など3項目を掲げ、それぞれが目指す目標と基本となる取組を記載しております。</p> <p>安全安心な食材で作る美味しい学校給食では、食物アレルギーのある児童生徒への対応などの考えを取り込んでおります。</p> <p>19ページでは、2つ目の戦略プログラム「児童生徒の安全対策の充実」と3つ目の戦略プログラム「教育環境の維持向上」として「学校配置の適正化」など3項目を掲げ、それぞれが目指す目標と基本となる取組を記載しております。</p> <p>また、教育ビジョンの表紙には、緑丘小学校6年生、山本紘聖君が描いた「校舎」、裏表紙には港南中学校1年生、中村心春さんが描いた「港に入る船」の絵で飾っております。</p> <p>次に、16ページにお戻りください。</p> <p>社会教育部門につきまして、生涯学習課長がご説明いたします。</p>
<p>長野生涯学習課長</p>	<p>それでは、私の方から、「社会教育部門」につきまして、ご説明いたします。</p> <p>12ページでは、社会教育部門の基本となる考え方、目標を示しており、「市民の多様なニーズに応える『学び』の支援体制の整備と地域課題の解決につながる学習機会を拡充し、多くの市民が地域づくりに参加できるよう支援」してまいりますとともに、「市民協働により、子どもから高齢者までのさまざまな学習ニーズに応える社会教育事業の推進と学習活動を支える施設整備の充実など、学習機会の整備」を進めてまいります。</p> <p>13ページをご覧ください。</p> <p>1つ目の戦略プログラム「生涯教育の充実」として、「学習支援体制の充実」など4項目を掲げ、それぞれが目指す目標と基本となる取組を記載しております。</p> <p>「学び」の推進体制の整備や、社会教育委員の会議の充実、ライフステージの移行に合わせ、自然に学習を始められる機会の提供、地域に根ざした学習支援や地域のリーダー育成など、学習成果を地域に還元できる体制づくり、社会教育施設におけるサービス向上などを各項目に記載したところでございます。</p> <p>14ページからは、2つ目の戦略プログラム「生涯スポーツの推進」として、「スポーツを楽しむ環境づくり」など3項目を掲</p>

	<p>げ、誰でもスポーツを楽しむことができる環境づくりや生涯スポーツの基礎づくり、生涯スポーツ社会の基盤づくり、各種スポーツ情報の提供、各種競技団体等への支援と地域の活性化などを各項目で記載したところでございます。</p> <p>15ページでは、3つ目の戦略プログラムとして「芸術・文化活動の推進と歴史の伝承」として、3項目を掲げ、芸術・文化活動の促進と鑑賞機会の拡大、文化振興活動等に対する育成・支援と継続的な音楽合宿受け入れに向けた支援、次世代の文化の担い手育成と郷土の歴史や文化を伝える講座の充実、文化財の適切な保存・保護と活用などを各項目で記載したところでございます。</p> <p>以上で、社会教育部門の説明とさせていただきます。</p>
高橋市長	<p>それでは、それぞれご意見をいただきたいと思いますが、まず私の方から表と裏表紙の絵について、これについて伺いますが。</p>
柏原学校教育課長	<p>表と裏表紙の絵についてでございますが、やはり子供たちの夢を乗せるということで、子どもの絵を使いたいということになりました、それぞれの学校にお願いいたしまして全部で6点の作品が学校から推薦していただきました。6点とも大変素晴らしいということで、策定会議で協議いたしまして、教育ビジョン、それと2つの振興計画の表表紙と裏表紙を使って推薦いただいた6点の作品については全部掲載していこうということで協議して決めさせていただきまして、教育ビジョンということで表面には校舎。教育に関する計画ビジョンと一目でわかるように校舎を、裏面の方につきましては、未来にはばたく留萌港ということで、船の絵ということで、こちらの2作品を選定させていただきました。</p>
高橋市長	<p>あと4人の人の絵は。別のところに出てくるの。</p>
柏原学校教育課長	<p>あとの4作品につきましては、学校教育の振興計画の表表紙と裏表紙、それと社会教育の表表紙と裏表紙にそれぞれ掲載いたします。</p>
高橋市長	<p>それで問題はない。</p>
柏原学校教育課長	<p>検討委員会でご協議いただきまして、この委員会の方にもご報告をさせていただきたいと思っております。</p>
高橋市長	<p>表紙になるというのは名誉なこと。名誉であればあるほど、PTAの中でこの冊子を見た時にどういう評価でどうかと聞かれた時にあまり辛くならないように、学校側から推薦をもらうことが、その辺のイメージが辛いかなと思ったりしたんですよね。これは結局10年間使うわけでしょ、いろんな場面で。その時に大丈夫かな。</p>
柏原学校教育課長	<p>推薦にあたりまして教育ビジョンの表紙に使うということをそれぞれ学校に校長会を通しまして説明した中で学年、お名前等を掲載する形になりますということを説明させていただいて、推薦</p>

	<p>いただいたということになります。</p>
高橋市長	<p>載った子が辛くならないかと思って。子どもたちが見て、子どもたちが感じた時に、自分の作品が10年間載るというのはそれは名誉なことなんだけども、10年間という長いことを考えたら、特定の子供の絵がずっと載せてうんぬんとなると、耐えられるのかなと思って。</p>
柏原学校教育課長	<p>その辺につきましては、先に描いていただいた生徒さんたちについては、こういうものに載るってということが既に学校通してわかっていることなので、その上で改めて作品名を考えていただいでご報告いただいたという形になっていますので、ご本人達につきましては、こういう計画に使わせていただくと先生を通じて連絡はしているところではあります。</p>
高橋市長	<p>野島委員、これは学校の先生としては、そのへんは素直にうれしいものですか。</p>
野島委員	<p>そうですね、教育ビジョンということで、子どもたちにも関係のある内容の中で何かを載せるのだったら子どもの物を載せてあげたいなという気持ちになると思います。</p>
高橋市長	<p>それなら問題はないですね。ではそういうことでいきましょう。それでは今事務局から説明がありました内容等について1ページの教育長の部分は特に問題はないですよ。あと体系で留萌市の教育ビジョン、そして学校教育部門、社会教育部門、教育環境部門という、この体系についても特に問題はありませんか。</p>
全委員	<p>はい。</p>
高橋市長	<p>それでは初めに学校教育部門の中で、「知・徳・体」って、今は「育」と入らなくてもこれで通用するの。</p>
柏原学校教育課長	<p>今はこういう表現となっています。</p>
高橋市長	<p>それでは、「確かなから学力を身に付けるための教育の充実」ということで、1はこの通りで、2の(1)から(7)まで「小・中学校教育の充実」ということで7点に分かれて書かれておりますけども、そこについてはいかがですか。</p>
高田委員	<p>ここに書かれているとおり、かなり細かく網羅されておりますし、小中学校教育の充実というところで、英語教育の必要性というのも強調されております。ここに載ってない所ですけども、先ほどの教育委員会でもありましたが、留萌市の小中学校の学力テストの結果の分析というのが先ほどありましたけども、小中学校ともに学力は上位ということがわかりました。それがこれらの裏付けのとして説明できるのかなと思っております。</p>

高橋市長	高田委員の発言の中で、小中の連携の話がありましたけれど、1の「幼保小の連携」、これは子どもたちの学力向上のために、ある程度、絵本の読み聞かせとか、読書に関わる部分で、幼保との関係は今までどういう流れなの。
柏原学校教育課長	幼保との連携につきましては、主にですね、幼保の部分では遊び中心の学習から小学校に上がりましたら一定時間、机に座ったままの授業スタイルの学びに変わることから、その辺で幼稚園・保育園の子供たちの状況を事細かに情報を交換しながら、スムーズに小学校の方に入學していただいて、子どもの特性に合わせた指導を小学校でも行っていけるようにと情報交流が主な部分となっております。
高橋市長	わかりました。 それでは次に豊かな心の育成ということで7ページになりますけれども、1の郷土に誇りを持った教育の推進から6の防災教育の充実の部分となります。
高田委員	ここにつきましても、子どももそうですし、大人もそうなんですけどメンタルの面でやはり、しっかりとした精神力、これほどのような場面でも生きていくためには必要なことだと思います。それから9ページの防災についても、各学校努力されて訓練など、学校便りなどでよく見かけますので、これらも期待しているということは、現在の先を見込んだ記述であると思います。
高橋市長	子どもたちに強い心を持ってもらうというと幼保の中では西川委員どう思いますか。幼保の場合は、子どもたちがいろいろ遊んだり、いろいろ一生懸命頑張る中で、また心の部分で豊かな心になる・・・。
西川委員	そうですね、我慢する力とかそういうものを今の子は欠けてるかと思います。あと保育園の場合は、0歳から5歳まで幅が大きいので、大きい子は小さい子を面倒見ること、強い心が養われるのかと思います。
高橋市長	野島委員、小学校に行ったら子どもたちの心の強さというのはどうなの。
野島委員	心の部分についてもいろいろな運動で体を鍛えることによって心も強くなるという方向に行くこともありますし、諸活動によって心を交わしていく考えもありますし。
高橋市長	クラブ活動みたいなものは小学校は何年生から。
野島委員	4年生あるいは3年生ですね。
高橋市長	3、4年生ぐらいからできるということ。
野島委員	そうですね。クラブ活動で同じ表現の子どもたちが集まって、自分たちのやりたい活動を実施していくというものです。
高橋市長	3番目の健やかな体の育成ということになりますけれども。
高田委員	運動して、体を鍛えて筋肉を付けるというのは非常に人間が生きていく上で大事なことだと思いますけれども、体も健康的な体と

	<p>いうものが必要ではないかと思えます。食生活というものも関係してくるのかと思えます。</p>
高橋市長	<p>食育の部分が今出ましたけども、私も幼稚園、保育園の子供たちが勤労感謝の日に来た時に「今朝ご飯食べた人」と聞いたら「はい」とみんなだいたい食べていたが、幼保の時まではみんな結構一生懸命食べさせるんだけど、小学校とかその辺はどうなんだろう。</p>
野島委員	<p>留萌はあれですけども、私が回ってきた学校ではだいたい食べてきていました。</p>
早川教育長	<p>9割以上は食べてきています。</p>
高橋市長	<p>運動するどころにするにしても、食べることをきちんとやっていないと逆に体力的に厳しい部分があるのかと、そういう面では食育の充実というのは必要だと思えます。</p> <p>10ページの「教職員の資質・能力の総合的な向上」と「信頼される学校づくりの推進」については1と2、学校評価について教育長何かありますか。</p>
早川教育長	<p>教職員の資質向上含めて、それぞれ学校が評価される競い合う学校を今私としては目指している。その中で校長がどんな学校経営をしていくのかということと、それともう1つ大きな話が教職員の時間外を含めて、そこら辺をもう1回整理したいなということと、教職員はやはり、子どもたちに直接向かい合いたいという気持ちがあるんですけども、それを確保するために教職員の子どもに向き合う時間をどれだけ確保できるかということが、今教育委員会としては、課題と受け止めている。そのためには研修活動も必要になってきますし、来年以降新たな取組みをしようかなと思っております。</p>
高橋市長	<p>学校評価結果の公表の情報発信、このことについてはどうですか。</p>
早川教育長	<p>学校評議員の中でその他の評価をしていますけども、市内の学校はかなり評価が高くなっています。市内の学校で言いますと地域と密接に関係を持った学校経営をしていますので、ということであると評価も高いですし、公表もしています。ただ、今後の国の動きになりますけども、コミュニティスクールという動きが出てきます。平成30年に向けて全校でコミュニティスクール普及に向けて、校長会含めて協議を進めてまいります。</p>
高橋市長	<p>コミュニティスクールの流れを考えたときに、今の教員の体制でそれを繋げていけるの。</p>
早川教育長	<p>現状を言いますと文科省の言っている配置でいけばそういう配置になりますけども、現実的に言いますと教員1名では1つのクラス経営が成り立たない状況になっています。ですから学習補助員ですとか支援員を私どもが配置をしたり、道教委にお願いした</p>



	<p>りと昔のような学校経営という部分ではないので、先程の幼保連携の関連で言うと小学校1年に上がる段階で、幼稚園でというような子どもなのかということを確認しながら、学校経営をしていかななくてはいけないということで、かなり昔のような学校の先生一人で学級経営をしているという状況ではないので、フレキシブルな対応を学校がしていかななくてはいけないという状況になっています。</p>
高橋市長	<p>学校教育部門についてはよろしいですか。</p>
全委員	<p>はい。</p>
高橋市長	<p>続いて社会教育部門については、「生涯学習の充実」「生涯スポーツの推進」「芸術文化活動の推進と歴史の伝承」の内容になっておりますけども</p>
高田委員	<p>それぞれ市民の多様なニーズがあると思いますけども、それらにえられるメニューが網羅されていると思います。特に体力づくりのためのことについては屋外のスポーツ、それからスポーツセンターのメニューを見ますとかなりのサークル的なものがありますので、それらも充実しているので、さらにそれらが続けていく必要があると思います。</p>
高橋市長	<p>「芸術文化活動の推進と歴史の伝承」という項目でありますけどもこの部分で3点書かれておりますけども、いかかがですか。</p>
高田委員	<p>旧佐賀番屋につきましても、新聞報道などでもよく見ますけども、文化財という制限の中で建物の改修とか展示とか、いろいろあるように聞いておりますので、そういう面では一部夏に開放して、それを見学してというのをやっておりますし、私たちも実際に見学に行ったことはありますので、制限の中で一生懸命やってくれているなというふうに思います。これから大きな改修というのはできそうもないように聞いておりますので、市民にあるいは遠方から来た方にも一定期間ではありますけども留萌の文化の状況を見学してもらえればと思います</p>
高橋市長	<p>今、佐賀番屋の話が出たんですけども、今年一部ですけども修繕の予算をつけて、その後の流れとしてどうなっていますか。</p>
長野生涯学習課長	<p>旧佐賀番屋の関係につきましては、母屋の関係で雨漏りやなんか若干あったということなので、今年もう終了してはいますが、母屋の屋根全面葺き替えということで今回させていただきました。来年度に向けては、修繕予算を少し確保する中で、「とたぐら」の状況を見ながら、また修繕できるところについてはしていこうというふうに考えております。</p>
高橋市長	<p>佐賀番屋は他の練番屋からすると、それほど大きくもないし、逆に質素なのかなと言う人もいますけども、全体的な内容から見ると極めてレベルの高いものが、そのまま残されていることについては、よそから言うと高く評価されているようで、この施設については、大事な財産として維持していかななくてはならないと私</p>

	<p>自身思っております。</p> <p>それでは「社会教育部門」はこれでよろしいですか。</p>
全委員	はい。
高橋市長	<p>次に「教育環境部門」、これについては耐震化等を含めて私どもとしては十分取り組んできたと思っておりますけれども、今後の部分についてはここに書いておりますけれども「学校施設等の環境整備」、さらには「教職員住宅の環境整備」についても十分配慮するべきだと思っております。さらには文化センター、スポーツセンター、これは大きな改修になりますけれども、この施設は今後5年、10年の中で、市の持てる公共の建物の中で、再度判断されていくのではないかと思っております。この10年のビジョンの中で方向性を決めていくのではないかと思っておりますけれども、この部門についてはどうでしょうか。</p> <p>あと児童生徒の安全対策等についても書かれていますけれども、最近まだ怪しげな人が声をかける事例というのはまだ続いているの。</p>
柏原学校 教育課長	最近も1件ございまして、頻繁にというほどではないのですが、一定期間の中で1、2件は発生しているというような状況でございます。
高橋市長	同じ人ではないんだよね。
柏原学校 教育課長	服装とかについては、今時期、外も暗くなっていくのも早いというのもあって、大体、黒系統の男の人という程度しか子どもたちも逃げの方が先なので、あまり見た目と言いますか、どういう特徴というのとはつかみきれないという部分があって、大体同じような人かもしれないという報告にはなってしまうなというのが実際のところであります。
高橋市長	「教育環境の維持向上」の中で、「学校配置の適正化」「児童生徒の実情に応じた学びの支援」「家庭環境の充実」ということで書かれていますけれども、実際子どもたちの家庭の環境で、野島委員、格差があるということでは言われているんですけど、実際に先生として勤務された中でも、経済的にちょっと親があれなんで、子どもに影響が出てくるということは現実的にありますか。
野島委員	多くはないですけども何件かはありました。
高橋市長	それはやっぱり各学校において、何件かあるということ。
野島委員	無いに越したことはないので、学校の方でも目をかけるようにしなくてあげなくてはいけませんね。
高橋市長	それは当時の先生として、実際に格差のある子どもたちに対して何か特別な対応はないよね。
野島委員	親御さんが子どもに手をかけられなくなり、不登校になったお子さんもいました。
高橋市長	経済的な部分で不登校になるケースって多いの。
柏原学校	経済的と言いますより、親の生活環境で大人の方でも心の病と

教育課長	かというの最近増えているのかなと感じています。
高橋市長	それが子どもに影響する。
柏原学校 教育課長	子どもに影響すると言いますか、子どもに手をかけられないで、子どもがいつも同じ服を着ているですとか、準備できない、忘れ物が多いですとか、やはり親が目をかける年代の子どもには、手をかけられないというケースが増えてきているのかというふうには感じています。
高橋市長	経済的な部分ともう一つ今回福島から避難して学校でのいじめの問題が出ていますけども、うちも幌糠は農村地帯で、昔はみんなほとんど農家の人の子どもたちで学校はなっていた。それが今は農家の人たちは別の中での社会生活や学校生活になっていく。その中で実際に廃校になってきたところから移ってきた子どもたちが不安を持たないような流れで、学校として育てていく。うちも今後まだまだ閉校する学校が出てくる方向性があるので、その子どもたちが、安心して学校生活を送れるような、そういう部分では学校の中ではどうですか。
野島委員	教員は、前の学校の先生を新しい学校に異動させていただいたりということが昔は多かったものですから、その先生が細かく、保護者に対しても、子どもに対しても対応していました。
高橋市長	そうか、閉校になる学校の先生と一緒にいるところに異動していくと。これからもそういう異動はあるの。
柏原学校 教育課長	今予定している学校としましては、北光中学校になるんですが、中学校の場合、教科の関係があるんで、そのタイミングがうまく合えばということが前提ですが、道教委の方に対しましては、当然そういう形をお願いをしておりますし、北光中学校の方で先生の数が非常に少なくなってきて、今音楽の授業が救急している状況がありまして、留萌教育局の方とも相談しまして、港南中学校の音楽の先生が、去年まで北光中学校にいたんですが、週に1回午後あたりに兼務という形で授業に入ってもらおうという方向で進む予定になっています。
高橋市長	そういう柔軟な対応ができれば、知っている先生が来て音楽やるというのは子どもたちにとって一番いい環境ですね。 あと最近はいじめの問題等はどうなんですか。もともと教育の体制というのはいじめの問題からスタートしてということだと思うんですけど。今実際、学校現場としての状況はどうなんですか。
柏原学校 教育課長	いじめにつきましては、それぞれ問題が小さい段階、把握した段階ですぐに学校の方で当事者若しくは場合によっては保護者等を交えて、きちんと話したり指導したりして、早期のうちに解決するようにそれぞれの学校が一生懸命やっただいておられますので、今現在では大きく問題になる、また、いじめで登校できないという状況はないというふうに認識しております。
高橋市長	では、いじめ以外の不登校は、学校によってはある。

柏原学校 教育課長	体調面ですとか、精神的な部分、親の養育状況で親の養育状況で不登校気味になっている子どもも現在のところいるというのが実際のところです
高橋市長	その子どもたちに対しては、いろいろな形での接触はもって継続しているの。
柏原学校 教育課長	継続してスクールソーシャルワーカーにも協力いただきまして、また学校の方でも一定程度、様子見にプリントを届けながら家庭学習を促したりとかの取組みは随時継続してやっています。
高橋市長	<p>それでは、ただいま委員の皆様方にこのビジョンについては。ご理解していただいたと思いますので、このビジョンについて今後取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>今日予定していた議事は以上なんですけども、委員の皆様方から何かありませんか。</p> <p>特にないようでございますので、それでは本日の議事を終了します。ありがとうございました。</p>
齊藤教育 部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>その他として何かございませんか。</p> <p>なければ以上をもちまして、第3回留萌市総合教育会議を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>

10 閉会宣言

午後3時15分